

3. トークイベント

共同学習事業の取り組みの1つとして、地域における豊かな暮らしの実現に向けて、医療・福祉・建築やその連携について新たなビジョンを提示する実践者をゲストに迎え、**ゲストによるショートレクチャーを題材に4大学の学生が意見交換を行うトークイベントを例年行っている。**

今年度は、幸手市にあるご自身のクリニックの隣にサロンをオープンされた歯科医の高柳篤史先生と、その設計を担当された倉林貴彦先生をゲストに迎え、当該のサロンを会場として開催した。

高柳歯科医院のサロンは、歯科診療を行う一方、予防歯科の第一線で研究をされてきた高柳篤史先生が、家庭環境や社会環境にアプローチする歯科医療に向けて構想された場所である。生活者目線と科学的根拠に基づくセルフケアのサポートを目指す「はみがき学の会」の拠点でもある。セルフケア、支え合う関係、ケアの専門的知識との接点が暮らしの中に自然にある状態を支援する、新しい医療への展望が窺える。

設計を担当した倉林貴彦先生は、これまでもケアのあり方に革新を与えるような施設の設計に携わってこられた建築である。サロンの建築は高柳先生のビジョンの具体化に向けて設計された。

講師の先生方のレクチャーとグループワークを通じて、暮らしの中にケアがあること、そのためのアプローチ、建築・空間デザインの可能性などについて4大学の学生が、学び合う機会として企画した。

【開催概要】

テーマ：「暮らしの中にケアを編む ～歯科医がつくったサロンでともに学び・考える～」

日時：2025年3月9日（日） 13:30～17:00（予定では16:30）

会場：高柳歯科医院 サロン（幸手市）

講師：高柳篤史先生（高柳歯科医院院長、東京歯科大学衛生学講座 客員教授、日本大学松戸歯学部 障害者歯科学講座兼任講師）

倉林貴彦先生（倉林貴彦建築設計事務所、日本工業大学 建築学科 非常勤講師）

参加者：学生 計11名 埼玉県立大学 看護学科 4年生 1名

日本工業大学 建築学科 1年 2名/ 2年1名/ 3年7名 計10名

教員 1名（埼玉県立大学 看護学科） 高柳歯科医院職員 1名（歯科衛生士）

運営： 勝木祐仁・三本松陽子（日本工業大学）

当日はまず、高柳先生から「暮らしからアプローチする口腔保健」のタイトルで、サロン開設の背景でもある、口腔保健における暮らしからのアプローチの必要性についてお話しいただいた。その後、高柳先生のレクチャーについての討議、コーヒープレイクを経て、倉林先生から「「幸手のはなれ」※の設計について」のタイトルで、設計の過程における高柳先生とのやり取り、敷地や地域環境の捉え方、それらを踏まえた設計の考え方についてお話しいただいた（※ 建築雑誌掲載時における当該のサロンの名称）。

最後に行われた全体討議において、看護学科の学生からは、普段、**人がどう生きたいかを中心にケアについて考えているが、倉林先生のお話から、建築も同じように考えるのだという発見**があったとの感想があった。建築の学生からは、「高柳先生がお話しくださった**社会的健康は建築分野とつながる**と感じた」、「医療者など他分野の人も含め、**関係者を巻き込みながら進める設計のプロセスに可能性を感じた**」、「まちづくりの取り組みに関わる経験はあったが、**医療・福祉の視点を含めて考えるのは初めてで新鮮だった**」などの感想があった。

医療を学ぶ学生と建築を学ぶ学生が、歯科医と建築家のレクチャーと学生間の討議を通じて、**人の暮らしを支え、豊かにすることについて新たな視点や学びを得ることができたようであった。**

なお、本イベントの告知開始が今年度の授業終了後の期間であったため、周知が難しく、日工大以外の参加学生が1名のみであった。次年度以降、適切な開催時期及び告知時期を見極めて企画を進めたい。



高柳先生のレクチャーの様子



倉林先生のレクチャーの様子



グループワーク後の発表の様子